

第2学年国語科学習指導案

指導者 永山 ゆうこ

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年・組 第2学年A組(31名)

3 単元名 そうぞうしたことを音読げきであらわそう
「お手紙」

4 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。【知識及び技能】(1)ク
(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ

- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで役割を決めて音読する活動

【だい本をかながえて音読げきをし、どんなかお?どんなこえ?どんなようす?どうしてそうしたの?をそうぞうしよう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク)	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	① 学習課題に沿って、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、進んで音読で表現したり、演じたりしようとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、4月教材「ふきのとう」、6月教材「スイミー」で、繰り返し音読したり動作化したりし、登場人物の行動や表情・口調を具体的に想像する学習を行った。児童は動作化することを楽しみ、進んで学習する姿が見られた。これらの学習を通して、自分が動作化したり友達が動作化するのを見たりして、登場人物の行動や表情・口調を具体的にイメージすることができるようになってきた。しかし、場面の様子に着目することや、行動の理由を想像することはまだ難しい。例えば「スイミー」の、小さな赤い魚たちが岩陰に隠れている場面で、赤い魚はたまたま岩の近くにいたのだと言う児童が半数近くいた。「いわかげ」や「だめだよ。大きな魚に食べられてしまうよ。」という叙述と結び付けて、赤い魚たちは大きな魚から隠れようとしているのだ、と登場人物の行動を具体的に想像することができる児童は少なかった。

音読については、音読することで言葉の意味を捉えることができ、文章の内容を理解できると実感していることが児童の発言からうかがえ、主体的に学習に取り組む姿が見られた。最初は発音が不明瞭だったり言葉の意味を捉えず発音してしまう児童も多くいたが、繰り返し声に出して読んだり音読を聞き合ったりすることで、明瞭な発音で文章を読むことや、ひとまとまりの語や文として読むことができるようになってきた。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を設定している。これは、第3学年及び第4学年では、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」に発展していく内容となっている。

アーノルド＝ローベルの作品は図書室に複数あり、児童にとって親しみやすい。がまくんとかえるくんのシリーズは、二人の温かくほほえましい友人関係が描かれる。児童が、物語を読むことを通して、相手を思いやることのよさを感じることができるようになりたい。

本教材は、がまくんとかえるくん二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれている。本文の7割は会話文で、音読することで、より登場人物の様子を想像しやすくなる。また、叙述をもとに動作化しやすく、会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きなどを想像し、二人の行動を具体的に捉えることができる。人物の行動と様子を詳しく捉え、場面の様子を想像することに適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

言語活動として、音読劇を設定する。音読劇を設定することで、児童は意欲的に、動作化しながら会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きを具体的に想像し、二人の行動の理由を考えることができる。

この物語は、お手紙を待ち望む登場人物の気持ちをベースに展開される。しかし実際にお手紙を相手に送ったり、もらったりしたことのある児童は半数程度である。0次として学級活動の時間に「ひみつたんてい」を行い、学級の誰かから自分あてのお手紙をもらったり、ひみつにしている相手にこっそり手紙を書く活動を体験する。

一次では、児童が学習で身に付ける力を知り、学習計画や課題を考えることで、見通しをもって学習できるようにする。主な指導事項である「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を、「どんな顔？どんな声？どんなようす？場所はどこ？どうしてそうなの？をお話の言葉から想像すること」と児童にとって分かりやすい言葉で示し、児童が付けたい力を意識して学習できるようにする。これまでの学習と同じように、教師の範読を聞き、登場人物の行動などについて疑問に思うことを出し合い、ペアや班で交流し、「このことについてはみんなで考えたい」という学習課題を考える。児童の考える学習課題は、「どうしてかえるくんは、かたつむりくんに手紙をおねがいのしたのか」「どうしてかえるくんは、『ぼくがきみにお手紙出したんだもの』と言ったのか」「どうして二人ともとてもしあわせな気持ちでげんかんにすわっていたのか」などが予想される。

内容の大体を捉えるため、挿絵に1から9まで番号をつけ、それぞれの挿絵の場所を「がまくんの家の玄関」など明記する。挿絵を手掛かりに、二人の家や家の中の家具などに注目させ、児童が場面の様子を捉えられるようにする。台本プリントを用意し、会話文を色分けして、だれの発言が分かりやすくする。

また教師がわざと間違っ読「ブー読み」を児童が聞き、間違いを見付けるなどし、児童が語と語のまとまりや言葉の響きを意識して、叙述を正確に読み内容を捉えられるようにする。並行して児童も繰り返し本文を音読する。音読では、言葉を確認、内容が理解できるか、どのように感じるかなどを、音読しながら自分の声を聞き、把握していくことに重点を置く。さらに音読した回数を教科書に記入する「音読貯金」に取り組み、回数を視覚化することで、音読への意欲をもつことができるようにする。

二次では、登場人物の行動や表情・口調、行動の理由を叙述をもとに具体的に想像するために、動作化したり、想像したことを台本に書き込んだり、友達の動作化を見て感想を伝え合ったりして学習する。台本プリントは、行間を空けて本文を印刷し、児童が行間に書き込みやすいようにしたプリントである。行間に書き込むのは、表情(表情マーク、～したみたいな顔)、声の大小や速度(大きく、小さく、ゆっくり)、様子(かなしそうなようす、どきどきしたようす、けんかしているみたいに)、行動(おき上がって、あい手を見て)などである。台本プリントの本文に、線や矢印を引いて横に書き込むことで、児童が叙述から想像できるようにする。登場人物の様子を書き込む際、児童は教科書巻末にある「ことばのたからばこ」の「気持ちであらわすことば」を使って「～な様子」

と表現する。例えば、なげやりな様子、すねた様子、などである。国語科や音楽科の鑑賞の学習においても、「ことばのたからばこ」を活用して、言葉の意味を教え合ったり言葉を使って動作や文章で表現したりする機会を設け、児童が想像したことを言葉で表現できるようにする。また、台本に書き込んだことをもとに、教師が、場所はどこか、なぜそのように読もうと考えたか理由を問い返したり、児童同士で質問したりすることを指導することで、場面の様子に着目したり、叙述と結び付けて想像したりすることができるようにしていく。本文に線を引いたり矢印を書いたりすることで、同じ言葉から違う読み方を想像した友達がいれば、児童は疑問をもち、考えを伝え合い文章を読んで感じたことを共有する機会になると考える。授業の振り返りは、動作化をして想像したこと、動作化を見て気付いたこと、学習課題について考えたことを視点にする。振り返りを交流することで、自分の言葉で考えを伝えたり、互いの感じ方や考え方を認め合ったりする力を養いたい。

三次では、隣の学級と音読劇を見せ合う。二次で想像したことが見ている児童に伝わるよう、自分たちが工夫して音読したり演じたりするところを事前に話してから、音読劇をする。ここでは学級を越えて児童の学びが広がることを期待する。

単元を通して、まず個人で思考する時間を確保し、その後ペアやグループでの活動を取り入れ、児童が自分の考えを根拠を挙げながら自分の言葉で伝え合う時間を確保する。また、教師は、話し合いを焦点化したり、多様な答えの出る発問を精選して投げかけたり、適切な伝え合いの場を設定し、自分の考えを伝えたい、友達の考えを聞きたいという児童主体の学び合う雰囲気的大事にしながら授業を進めていく。

8 単元の指導計画（14時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動「ひみつたんてい」で、クラスメイトにお手紙を書いたりお手紙を待ったりする体験をする。 ○学校司書によるアーノルド＝ローベルの本の読み聞かせを聞き、作者やがまくんやかえるくんに親しみをもつ。 ○アーノルド＝ローベルの本を読むことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も安心して活動に取り組むことができるように、年度はじめに「うれしい言葉」の学習をし、席替えの度に肯定的なメッセージを送り合う活動を積み重ねる。また、嬉しい言葉を送り合った喜びを学級全体で共有できるようにする。 ・アーノルド＝ローベルの本を読むことを楽しむために、冊数を確保し、並行読書コーナーを設置する。 	
一	1 5 4	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のねらいを知り、物語の内容を想像する。 ○教師の範読を聞き、物語文中で意味の分からない言葉をたずね合ったり、自分の体験と結び付けて感想をもち伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を学ぶ単元なのかを児童と共有しながら学習を進めるよう、単元で身に付ける力を児童に分かりやすい言葉で示す。 ・意味の分からない言葉は児童同士で教え合わせることで言葉の意味を児童の言葉で理解できるようにする。「ふしあわせ」「あきあきした」など児童にとって分かり 	

		<p>○9枚の挿絵を並べ替え、場面や登場人物の行動を確かめ、内容の大体を捉える。</p> <p>○学習課題を考える。</p> <p>○台本を使って音読劇をするというめあてをもち、学習計画を考える。</p> <p>○「音読貯金」に取り組み、声に出して繰り返し音読する。</p> <p>○台本に書き込むことを整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>どんな顔? … 😊、～したみたいな顔</p> <p>どんな声? … 大、小、ゆっくり、はやく、かなしい声</p> <p>どんなようす? … かなしそうなようす、けんかしているみたいに</p> <p>うごき … 立って、はしって</p> <p>場しょ … まどのちかくで</p> </div>	<p>にくいと予想される言葉は、みんなで共有し、教師からも説明するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容の大体を捉えられるように、登場人物の行動を動作化することを指導する。 ・事柄の順序や場面の様子を捉えられるようにするため、場所に関する叙述や挿絵を手掛かりにすることを助言する。 ・児童が安心感と見通しをもって学習できるようにするため、単元の学習計画やめあてを掲示する。 ・音読の工夫の視点をもつために、工夫して音読している児童の読み方に着目するよう助言する。 	
二	5	<p>○がまくんの家の玄関でのがまくんやかえるくん（1～4段落）の行動等について、台本に書いたり動作化したり、互いに見て感想を伝え合ったりしながら具体的に想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子について想像したことを台本に書き込む際の助けになるよう、二次を通して「ことばのたからばこ」を掲示する。 ・場面ごとに課題について考えを伝え合えるようにするため、二次を通して、児童が考えた学習課題を掲示する。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・「いちどもかい」の読み方やかえるくんも腰を下ろす理由について、児童が考えを伝え合えるようにする。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ○かえるくんの家から、かたつむりくんに頼むまでのかえるくん（5、6段落）の行動等について、台本に書いたり動作化したり、互いに見て感想を伝え合ったりしながら具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんが「家からとび出した」理由や、かたつむりくんに頼んだ理由について児童が考えを伝え合えるようにする。 	
7・8	<ul style="list-style-type: none"> ○がまくんの寝室でのかえるくんとがまくん（7～12段落）の行動等について、台本に書いたり動作化したり、互いに見て感想を伝え合ったりしながら具体的に想像する。 ○13段落のかえるくんとがまくんについて、想像したことを台本に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんがベッドに寝ている理由や、かえるくんがまどからのぞいた理由について児童が考えを伝え合えるようにする。 	
9 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○13段落のかえるくんとがまくんの行動等について動作化したり、互いに見て感想を伝え合ったりしながら具体的に想像する。 ○みんなで考えたいこと「かえるくんががまくんにお手紙を出したことを打ち明けたのはどうしてか」について考え、考えを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きみが」の読み方について児童が考えを伝え合えるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 [思①]【発言・記述・音読】</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ○14段落のかえるくんとがまくんの行動等について台本に書いたり動作化したり、互いに見て感想を伝え合ったりしながら具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ああ」の読み方について児童が考えを伝え合えるようにする。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ○げんかんに出た後のがまくんやかえるくん（15～20段落）の行動等について台本に書いたり動作化したりしながら具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人ともとてもしあわせな気持ちで座っていた理由を考え、考えを伝え合えるようにする。 	

	12	○二次の学習を通して、音読したり演じたりして表現したい場面をペアで選び、台本を考え、音読したり演じたりする。	・これまでの学習を振り返ることができるように台本や掲示物を振り返るように助言する。	◎学習課題に沿って、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、進んで音読で表現したり演じたりしようとしている。[主] 【観察・発言・記述・音読】
三	13	○隣の学級と音読劇を見せ合い、感想を伝え合う。	・場面の様子に着目したことや具体的に想像したことがわかるように、音読劇の前にどのように音読劇をするのか発言するよう指導する。	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。[知]【観察・音読】
四	14	○「お手紙」を学習した感想を書き、共有する。	・学習で身に付けたい力や学習課題を振り返る時間を設け、動作化をして想像したこと、動作化を見て気付いたこと、学習課題について考えたことを視点にし、自分の学習を客観的に振り返ることができるようにする。	

9 単元のゴールの姿

- ・ わたしは、どうさかしたら、する前よりも、かえるくんが大いそぎで家にかえって、いそいで手紙をかいたことがわかりました。どうさかすると、なんでそうしたのか、よくかんがえられました。つぎの学しゅうでも、どうさかしてやってみたいです。
- ・ ぼくは、おんどくげきを見て、〇〇さんが『ああ。』を、がまくんがやっと手紙をもらえるとわかったから、ほっとした声で読む。」と言っていて、いいなと思いました。おんどくげきをすると、どんなふうに読むのかよくかんがえることができました。
- ・ 「みんなでかんがえたいこと」をかんがえたら、さいしょ分からなかったことが分かるようになりました。わたしは、かえるくんがかたつむりくんにお手紙をおねがいするのは「なんで?」と思いました。かえるくんはじぶんでわたせばいいとおもったけど、〇〇さんが「サプライズでがまくんをおどろかせようとしたのだ。」と言って、よくわかりました。つぎも、みんなでわからないことをかいけつしていきたいです。

10 本時の学習（第二次9時）

(1) 目標

かえるくんやがまくんが何をしたのか、どのような表情、口調、様子だったのか、なぜその行動をしたのかの理由を台本に書き込み、具体的に想像することができる。〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてと学習の流れを確認する。	・「みんなで考えたいこと」を想起できるよう掲示し、指し示すようにする。	
めあて どんな顔で？どんな声で？どうしてそうしたの？やってみよう！そうぞうしよう。		
2 ペアで、前時に台本に書き込んだ内容を共有し、音読したり演じたりする。	※努力を要する児童には、「ことばのたからばこ」や表情マークの選択肢を示し、がまくんやかえるくんがどのような表情や様子かを選択して想像できるようにする。	◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思①〕【発言・記述・音読】
3 全体で台本に書いた内容や動作化を見せ合い、感想を伝え合う。	・教師がタブレットで児童の動作化を撮影し、感想を交流する時に再生して見られるようにする。	
4 「みんなで考えたいこと」について考え、考えを伝え合う。「かえるくんはどうしてがまくんに『ぼくが手紙を出した。』と言ったのかな。」	※努力を要する児童には、教師と音読したり、動作化して気付いたことを想起させたりして、考えるよう助言する。	
5 本時の学習のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・「きみが」をおどろいたかおで読むとそうぞうしました。 ・「お手紙になんて書いたの」を、わくわくしたようすで言うことをそうぞうしました。 ・かえるくんは、がまくんがずっとがみをもらえなくてすねているから、言うしかないと思って言ったのだとかんがえました。

11 板書計画

まとめ

- ・がまくんがすぐすねているから、かえるくんがあせってしまった。
- ・ほんとうは、ひみつにしておきたかったけどできないとおもった。


みんなでかんがえたいこと

かえるくんはどうしてお手紙を出したことをがまくんに言ったのか。

本文

児童の発言を
該当箇所に
書き込んでいく

(例)

「きみが」
 うれしいようす

お手紙

やってみよう！そうぞうしよう

どんな顔？どんな声？
どんなようす？どうしてそうしたの？

そうぞうしたことを音読けきであらわそう

第2学年国語科学習指導案

指導者 三浦 純子

1 日 時 令和6年1月25日(木)5校時(13:50~14:35)

2 学年・組 第2学年B組(32名)

3 単元名 読んで、かんじたことをつたえ合おう
「スーホの白い馬」

4 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) オ
- (2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) カ
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【心をうごかされたところを友達と伝え合い、登場人物に手紙を書こう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1) オ)	① 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C (1) カ) ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1) エ)	① 学習課題に沿って、文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、進んで、心に残ったことや考えたことを伝え合おうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、年度当初、文学的な文章を読んで感想を書くときに、何を書いてよいか分からず、書き出すことができない児童が数名見られ、個別に思いを聞き取り、文章に表せるよう支援し

てきた。6月に行った国語科学習アンケートでは、「国語科の学習で、自分の感想や考えをもつことができているか」という質問について、「あてはまらない・まったくあてはまらない」と回答した児童の割合が36%であった。

そこで、9月教材「ミリーのすてきなぼうし」では、物語の「ふしぎ」について考え、児童同士で考えを伝え合う学習を行った。叙述と結び付けて想像したことや文章や挿絵から分かったことを伝え合い、自分の考えをまとめた。11月教材「わたしはおねえさん」では、登場人物の行動と自分の体験とを結び付け、感想をもつ学習を行った。登場人物が自分と同じ2年生であることから、実際の経験と結び付けて考えやすく、想像を広げたり、理解を深めたりすることができた。現在は、個別に対応してきた児童が自分の考えを表出しようと試みる姿が見られるようになってきた。

考えや感想を共有するために、文章を読み合う活動や、文章をタブレット端末で撮影し、学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出したものを読み合う活動を行ってきた。班で話し合うときには、ホワイトボードを用意し、伝え合ったことをまとめる活動に取り組んできた。全体で考えを交流する際には、グループで出し合った考えをまとめて黒板に貼って発表したり、ホワイトボードにメモしたことを基に発表したりしてきた。このような活動を通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする姿が見られるようになり、全体の場で発言できる児童が増えてきた。

しかし、考えや感想を伝える場面では、考えをもってはいるが、みんなの前で発表することを恥ずかしいと思い、伝え合うことや発表することに消極的である姿が多く見られていた。「国語科の学習で、自分の感想や考えを伝えることができているか」では、肯定的な回答は34%にとどまっている。11月教材「お手紙」では、登場人物になりきって動作化し、登場人物の行動を具体的に想像する学習を行った。登場人物の行動についての疑問を出し合い、学習課題を設定し、考えたことをグループや学級全体で伝え合った。その際、自分の考えをもち、叙述に基づいて意見を伝える児童が増えてきたが、伝え合う内容について正しく把握できず、主体的に話し合いに参加できていない児童も数名見られた。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)カ「文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること」を設定している。これは、第3学年及び第4学年では、「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」に発展していく内容となっている。

本教材は、両親と離れ貧しくも慎ましく生活し、モンゴルの壮大な草原でたくましく育ったスーホと、命を救い大切に育ててくれたスーホの思いに応えようとする白馬の強く温かな絆が描かれ、悲しくも美しい印象を残す物語である。登場人物の様子を表す言葉が多く、身近なことを表す語句の量を増やすのに適した教材である。これまでに児童が出合った物語にはあまりない、辛く心の痛む場面も出てくるが、それだけに、強く心に残る読書体験をすることができる作品とも言える。

文章構成は、冒頭が全体の「前書き」で、物語全体は「馬頭琴」という楽器の由来話になってい

る。そして、「結び」の4行で余韻を残して終えている。2年生にとって、長文ではあるが、一つ一つの場が魅力的であるため、児童は引き込まれながら読み進めることができ、それぞれに感動を抱くことが可能である。ここでの感動を、単元を通して「物語を読み、考えを伝え合う活動」につなげていきたい。

(3) 指導観

本教材には、普段の生活様式と異なる遊牧民族の生活が描写されており、児童が登場人物の行動や生活状況を想像することは難しい。そのため、モンゴルの生活が分かる本や動画を用意して紹介したり、馬頭琴を演奏する動画を見たりして、スーホが飼育している羊の大切さや広大な草原が続く場所を懸命に走って帰ってきた白馬の様子を想像できるようにしていきたい。

並行読書では、各国の昔話やその土地に伝わるお話をこども図書館から借りて廊下に用意し、いつでも本に親しむことができるようにしたい。また、本の題名を示した表を掲示し、読んだ本にシールを貼ることで、友達が読んだ本を知り、好きな本やおすすめの本について共有し、いろいろな本を読む楽しさや面白さを味わうことができるようにしたい。

言語活動として、登場人物に手紙を書く活動を設定する。最も心を動かされた場面について、心を動かされた理由を明らかにしたり、自分の体験と結び付けたりして感想をもち、登場人物に宛てて手紙を書く。手紙形式にすることで、児童は登場人物に寄り添い、自分の言葉で感想を書くことができる。

単元を通して、物語の本文を一枚のプリントにまとめた、全文掲載プリントを使用し、挿絵を手掛かりに物語全体の内容を理解したり、場面の様子や移り変わりなどの叙述と結び付けて登場人物の行動を想像したりできるようにする。また、学習の目標を「心をうごかされたことをつたえよう」と示し、伝え合う内容を児童が把握しやすいようにする。

一次では、児童が学習の目標を知り、学習計画を立てたり課題を設定したりすることで、見通しをもって主体的に学習できるようにする。児童にとって新しい言葉、意味の分からない言葉に着目したり、意味を話し合ったりすることで、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができるようにする。また、8枚の挿絵を物語の順序通りに並べ、その下に登場人物や出来事を書いて表にして整理することで、内容の大体を捉えることができるようにする。そして、登場人物の行動について疑問に感じたことを全体で交流し、みんなで考えたいことを、学習課題として設定する。児童の挙げる疑問としては「スーホは殿様の言うことを聞かず、言い返したのはなぜか」「白馬は矢がささったのに、どうして走り続けたのか」「大切な白馬をなぜスーホは馬頭琴にしたのか」などが予想される。

二次では、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像していくために、スーホと白馬、スーホと殿様とのやりとりを動作化したり、友達の動作化を見たりして学習を進める。動作化を手立てに学習課題について考え、登場人物の行動について具体的に想像した後で、場面ごとに心を動かされた段落を選び、理由を明らかにしたり自分の体験と結び付けたりして、感想を書く。その感想を学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出することで、書いた感想を、場面をつなげて保存し、二次の最後に学習を振り返ることができるようにする。また、考えたことを伝え合うために、まずは班で交流することで、自分と他者とでは、心を動かされた場面が違うこ

とに気付くようにする。学習の終盤では、心を動かされた文章がある段落を選び、選んだ段落ごとに集まって交流をする。同じ段落を選んでも、心を動かされた文章が違ったり、理由が違ったりすることに気付くようにしたい。

三次では、登場人物に手紙を書き、友達の作品を読むことで、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする。感想を共有することで、物語の世界がさらに広がるようにしたい。

8 単元の指導計画（15時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<p>○物語に登場する遊牧民の暮らしやモンゴルの生活について知る。</p> <p>○いろいろな国の昔話や、その土地に伝わるお話を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・馬頭琴を演奏する様子やモンゴルの生活が分かる動画や本を用意することでスーホの生活について想像できるようにする。 ・図書室の本やこども図書館で借りた本を廊下に用意し、児童が手に取りやすくすることや、教師が読み聞かせをすることで、各国の昔話に親しむことができるようにする。 ・児童がどの本を読んだか、表に貼る活動を通して、意欲的に読書に取り組むことができるようにする。 	
一	1	<p>○全文を読み、初発の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の設定につなげるために、感じたことやふしぎだな、どうしてだろうと思ったことを書くよう指導する。 	

	1	<p>○単元のめあてや三次で登場人物に手紙を書くことを知り、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出することで、場面ごとの感想を比べたり、共有したりする。 ・既習事項を振り返ることで、本単元の学習に見通しをもって学習に参加することができるようにする。 	
—	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	<p>○挿絵を並べ替え、場面や登場人物の行動を確かめ、内容の大体を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵を用意し、学習プリントに貼る作業を通して、物語の流れをつかむことができるようにする。 ・内容の大体を捉えるために、スーホや白馬がしたことやできごとについて着目し、短い言葉でまとめるようにする。 ・難しい言葉や分からない言葉について、意味を考え児童の言葉で表現するようにする。 ・みんなで考えると、話がよく分かるようになるものや、みんなで話し合ってみたいものを自分たちで話し合い選ぶことで、主体的に学習活動に参加できるようにする。 	<p>◎ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。【知①】【記述】</p>

	<p>6 ・ 7 ・ 8</p>	<p>○スーホと白馬が出会う場面について、スーホの行動について理由を考え、伝え合う。</p> <p>○羊をオオカミから守る白馬の行動について理由を考え、伝え合う。</p> <p>○④から⑩段落について、心を動かされた場面について感想を書き、班で伝え合う。</p>	<p>・スーホがどのような少年なのか考えることで、白馬を大切にしてきたことに気付くことができるようにする。</p> <p>・白馬の描写に着目して動作化することで、懸命に羊を守った様子を想像できるようにする。</p> <p>・共有したり、振り返ったりするために、感想を学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出するようにする。</p>	<p>◎ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。[思②]【発言・記述】</p>
<p>二</p>	<p>9 ・ 10 ・ 11</p>	<p>○競馬に出て白馬を殿様に取り上げられたスーホの行動について理由を考え、伝え合う。</p> <p>○殿様のところから逃げ出す白馬が走り続けた行動について理由を考え、伝え合う。</p> <p>○⑰から⑳段落について、心を動かされた場面について感想を書き、伝え合う。</p>	<p>・動作化を通して、かっとなって、夢中で殿様に言い返したスーホの行動について想像できるようにする。</p> <p>・白馬の描写に着目することで、白馬の行動を具体的に想像できるようにする。</p> <p>・共有したり、振り返ったりするために、感想を学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出する。</p>	<p>◎ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。[思①]【観察・発言・記述】</p>

	<p>12 ・ 13 ・ 14 本 時</p>	<p>○スーホのところに帰ってきた白馬の行動について理由を考え、伝え合う。</p> <p>○馬頭琴を作るスーホの行動について、理由を考え伝え合う。</p> <p>○㉓から㉔段落について、心を動かされた場面について、感想を書き、伝え合う。</p>	<p>・動作化をすることで、白馬の矢を抜き、看取っていくスーホの行動について想像できるようにする。</p> <p>・学習課題を掲示したり、配付したりすることで、学習課題についていつでも振り返り、考えることができるようにする。</p> <p>・共有したり、振り返ったりするために、感想を学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出するようにする。</p>	<p>◎ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。[思①]【観察・発言・記述】</p> <p>◎ 学習課題に沿って、文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、進んで、心に残ったことや考えたことを伝え合おうとしている。[主]【観察・発言・記述】</p>
<p>三</p>	<p>15</p>	<p>○登場人物に手紙を書く。</p> <p>○友達の手紙を読み、友達の心が動かされた場面について共有する。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>・今まで書いた感想をタブレットで記録した写真や感想を書いたプリントを読んで振り返ることで、感想をもつことが苦手な児童も主体的に活動できるようにする。</p> <p>・書いた内容を共有できるように、学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」に提出する。</p> <p>・友達の手紙と比べて、似たところや違うところについて書くことで、感じ方や考え方を認め合うことができるようにする。</p>	<p>◎ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。[知①]【記述】</p> <p>◎ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。[思①]【観察・発言・記述】</p>

9 単元のゴールの姿

- ・わたしは、スーホが「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」のところかなしくて、つらくて、心をうごかされました。〇〇さんも、同じところで心をうごかされたけれど、白馬を大切に思っていることがつたわってきたと書いていて、びっくりしました。同じところをえらんでも、かんじることがちがうことが分かりました。
- ・わたしは、白馬について手紙を書きました。〇〇くんも、白馬に手紙を書いていました。でも、心をうごかされたところがちがっていて、〇〇くんは、「わかい白馬が、おおかみの前に立ちふさがって、ひっしにふせいでいました。」のところでした。スーホが大切にしているひつじをまもって、おんがえしをしたいと思ったことがすごいと書いてありました。わたしとは、心をうごかされたところはちがうけど、白馬ってすごいなと思っているところは、いっしょです。

10 本時の学習（第二次 14 時）

(1) 目標

心を動かされた場面について、児童同士で感想を交流し、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることができる。〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確かめる。		
心をうごかされたところを友だちとつたえ合い、自分のかんそうと にているところや ちがうところを見つけよう		
2 学習する場면을音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ段落を立てて音読することで、同じ段落を選んだ人を確認し、次の活動に意欲をもって取り組むことができるようにする。 	
3 同じ段落を選んで感想を書いた人同士でグループになり、感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活発に感想を交流できるように、教師が事前にグループを作り、発表しておく。 ・心を動かされた場면을振り返ることができるように、学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」を確認できるようにする。 ・「グループでの話し合いのしかた」を掲示し、話し合いの流れをいつでも確認することができるようにする。 ・ホワイトボードを用意し、出てきた意見をメモしたり、まとめたりできるようにする。 	
4 グループで出た感想を発表し、全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を拡大したものを掲示し、全体交流で叙述が確認できるようにする。 	

<p>5 振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の手元に全文プリントを用意することで、発表を聞きながら、本文を確認することができるようする。 ・グループや全体交流で出た考えと自分の感想を比べて、自分と似たところや違うところについて書くよう確認する。 <p>※ 努力を要する児童には、板書や学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」の提出ボックスを見るよう促し、自分の感想と似ている人や、違う人は誰だったのかたずねる。その後、提出ボックスで該当児童の記述を振り返り、どこに注目したのか明らかにするよう線を引き、感想を書くように促す。</p>	<p>◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。〔思①〕</p> <p>【記述・発言】</p>
<p>6 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の感想を読んで振り返りを書くことができるように、学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」を確認できるようにする。 	
<p>・〇〇さんと同じだんらくをえらんだけど、心をうごかされた文がちがっていて、おどろきました。</p> <p>・〇〇さんとわたしは、おなじ文をえらんだけど、かんじたことはちがってました。</p> <p>・どこへ行くときも、この馬頭きんをもっていくことに心をうごかされました。〇〇さんや〇〇くんも同じところに心をうごかされてました。</p>		

11 板書計画

かんじたことをつたえ合おう

スーホの白い馬

めあて

心をうごかされたところを友だちとつたえ合
い、自分のかんそうとにしているところやち
がうところを見つけよう

グループで出たかんそう

(段落ごとに出てきた感想を板書する)

ふりかえり

自分のかんそうとくらべて、にているところやち
がうところを見つけて書こう。

まとめ

にているところ

・同じ文で心をうごかされた。

ちがうところ

・同じだんらくだけど、心をうごかされた文がち
がう。

・同じ文をえらんだけど、かんじたことがちがう。

第2学年 国語科と平和教育のつながり

国語科
(文学的な文章)

想像を広げて読もう
「スイミー」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物の行動を具体的に想像するために動作化をし、互いに見合って感想を伝え合うことで、想像を広げたり理解を深めたりする。
- ・学習課題について考える場面で、文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、友達の考えを聞くことで「おもしろいな」と感じたり「なるほど」と気付いたり、互いの考えを認め合ったりする。

そうぞうしたことを音読げきであらわそう
「お手紙」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物の行動や表情・口調、行動の理由について叙述に基づいて想像するために、台本に書き込んで音読劇に取り組む。音読や演じることを通して想像したことを、自分の言葉で互いに伝え合う。
- ・学習課題について考える場面で、登場人物の行動の理由について、動作化の体験と結び付けたり叙述に着目したりして考えをもち、互いに交流することで考えを認め合い、理解を深める。

読んでかんじたことをつたえ合おう
「スーホの白い馬」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・動作化したり、学習課題について考えたりする学習を通して児童一人一人が思いをもち、物語の感想を伝え合う。互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする。
- ・ICTを活用し、様々な意見を一齐に見ることができるようになることで、同じ物語を読んでも、文章のどの叙述に対してどのような感想をもったかが異なり、様々な感じ方があることに気付く。

他教科等

原爆が落とされた頃の人々の暮らしについて知ろう

「平和の願いを込めてとらうを作ろう」(図画工作科)

- ・平和について自分のこととして考え、その思いを伝えることができるようにする。
「平和な世界にするために今の自分にできることは？」と児童に問いかけその思いをとらうに書く。

「みんな生きている(平和ノート)」(道徳科)、「もっと草花となかよくなろう」(生活科)

- ・植物に親しみをもち、自分たちと同じように植物も成長していることに気づき、自分の考えをもち。

「アオギリ」(生活科・道徳科・国語科)

- ・被爆しながらも生命をつないでいるアオギリに対する人々の思いや願いについて考える。

「へいわをつたえるアオギリ」(生活科・道徳科・国語科)

- ・「被爆アオギリ二世」の取り組みについて知り、これまでの学習したことを家族に伝える文章を書く。

「せんそうがあつたころの広島について知ろう」(生活科・道徳科・国語科)

- ・当時の暮らしについて知り、今の暮らしと比べることによって、今の自分たちの暮らしがなぜあるのかについて考え、伝え合うことで、様々な考えを知る。
- ・絵本「いわたくんちのおばあちゃん」を聞き、当時の様子を知る。
- ・戦争や原子爆弾が尊い命や家族のきずなを一瞬で奪うものであることを知り、平和を大切にしようとする思いをもち。
- ・岩田美穂さんから、原爆の時のちづ子さんの話や、戦争があつたころの広島街の様子について聞き、自分の考えをもち、伝え合う。